

「だいち2号」(ALOS-2)の 運用状況について

平成26年(2014年)6月27日
宇宙航空研究開発機構
第一衛星利用ミッション本部
ALOS-2プロジェクトマネージャ
鈴木 新一



打上げ・クリティカル運用の状況

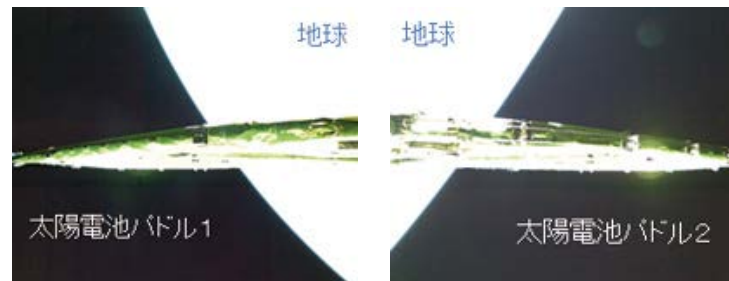
- 平成26年5月24日午後0時05分14秒(日本標準時)に打上げ・・・①
- 打上げ後約15分47秒の午後0時21分01秒にロケットから分離・・・②
- 打上げ後約25分の午後0時30分に太陽電池パドルを展開、太陽補足モードに移行・・・③



①打上げ



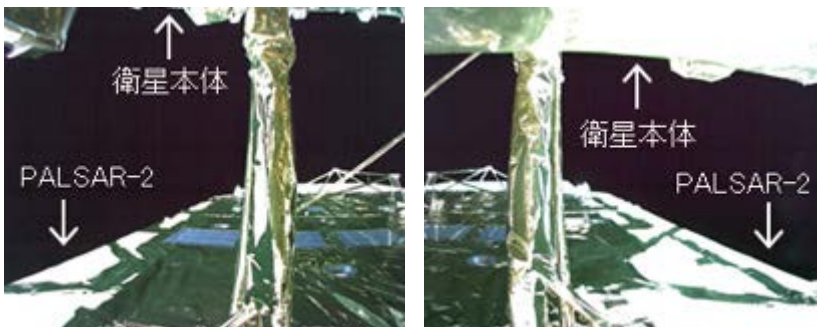
②ロケット
から分離



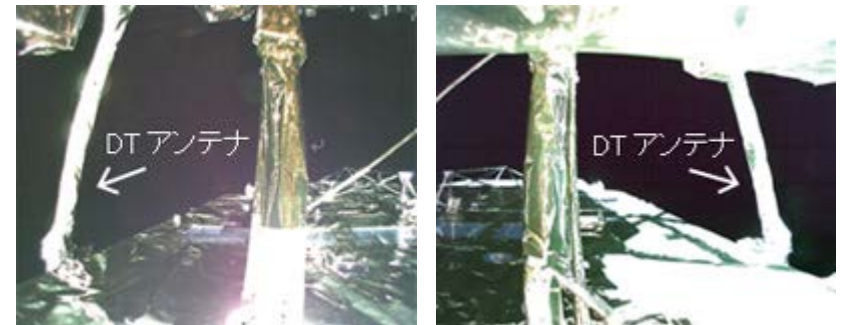
③太陽電池パドル展開

打上げ・クリティカル運用の状況(続き)

- 5月26日午前11時25分にLバンド合成開口レーダ(PALSAR-2)のアンテナ展開を完了・・・④
- 5月27日午前2時15分に直接伝送(DT)用アンテナ展開を完了・・・⑤
- 5月27日午後1時24分に姿勢制御系の定常モード(FNM)に移行、5月27日午後4時00分に打上げクリティカル運用期間を終了



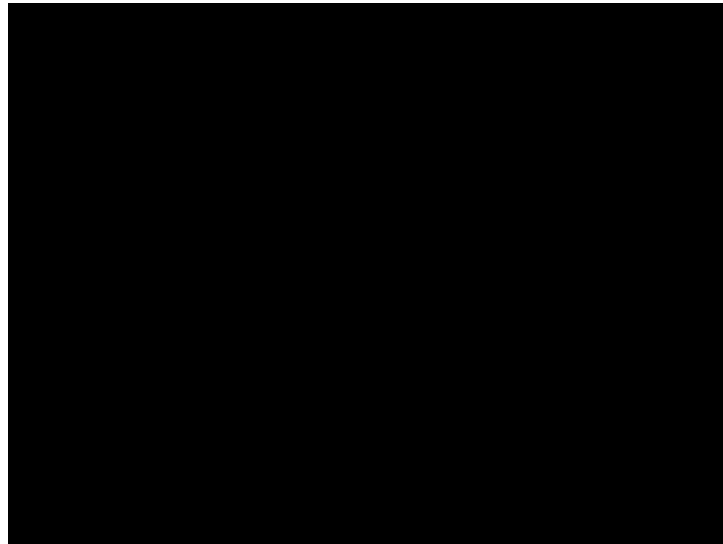
④ PALSAR-2アンテナ展開
(第2翼展開後の画像)



⑤ DTアンテナ展開

初期チェックアウト実績と今後の計画

- 現在「だいち2号」は正常に動作している。
- 6月5日 PALSAR-2アンテナ展開画像(動画)を公開。
- 6月12日 DT 800Mbps伝送(地球観測衛星では世界最高速)に成功。
太陽電池パドル展開画像(動画)を公開。
- 6月27日(本日) PALSAR-2初画像を公開。
- 8月中旬 定常段階移行、PALSAR-2による定常観測開始。
- 11月下旬 プロダクトの提供開始(打上げから約6ヶ月後※)
※災害観測要請があった場合未校正でも提供する場合あり



人間に、健康診断があるように。
地球には、だいち2号がある。

自分の身体のごことは、自分がいちばんよくわかる。
そう自信満々に言う人ほど、身体のごさいな変化を見逃してしまうもの。
感覚だけでは決してわからない、小さな数値の異常を
健康診断が教えてくれるように。
宇宙から地球を見つめ続けて
地上にはわからない、大地や海の変化を送り続ける。
それが、だいち2号のミッションです。

私たちの足下で、大地は今日も動き、変化しています。
地震、火山噴火、土砂崩れ。災害だけではなく人の手による自然破壊も原因。
地球の健康を維持するために、宇宙から精密に診断する。
それは未来の、私たちの子孫のためにも、必要なことなのです。

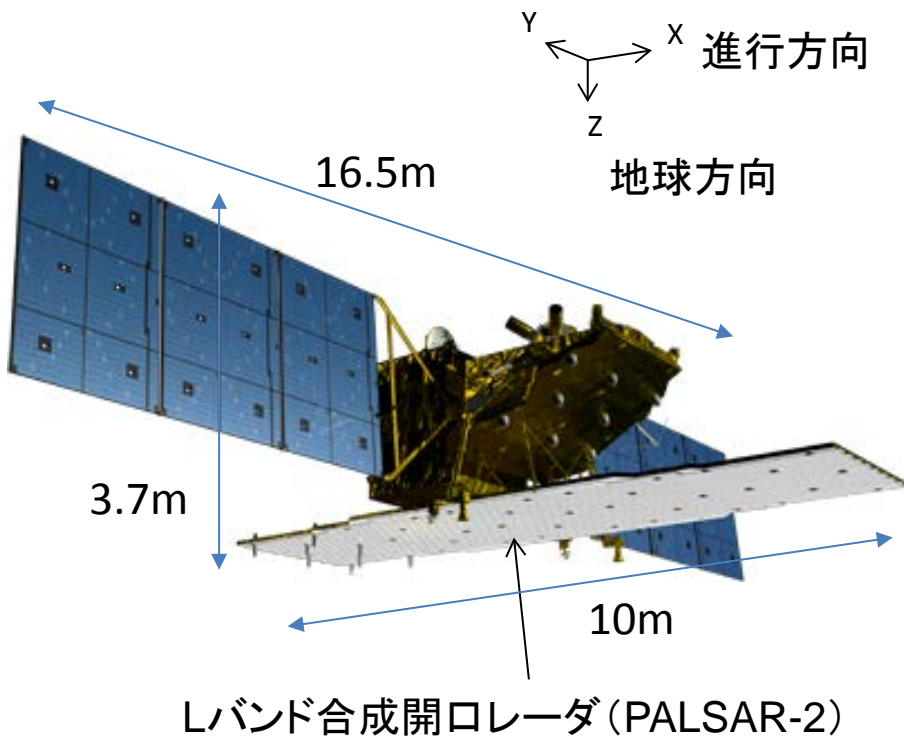
大地にも、
精密検査が必要だ。



宇宙なら、できる。
第一衛星利用ミッション本部



ALOS-2衛星システム概要



ALOS-2 軌道上概観図

運用軌道	種類	太陽同期準回帰軌道(14日回帰)
	高度	628km(赤道上)
	通過時刻	12:00(正午)@赤道上(降交軌道)
設計寿命		5年(目標7年)
打上	時期	平成26年(2014年)5月
	ロケット	H-IIA
衛星	質量	約2トン
	パドル	2翼パネル
ミッションデータ伝送		直接伝送およびデータ中継衛星経由
合成開口レーダ周波数		Lバンド(1.2GHz帯)
観測性能	スポットライト	分解能:1~3m 観測幅:25km
	高分解能	分解能:3/6/10m 観測幅:50/50/70km
	広域観測	分解能:100/60m 観測幅:350/490km

技術実証ミッションとして小型赤外カメラ(CIRC)、船舶自動識別(AIS)信号受信機(SPAISE2)を搭載